



九州新幹線西九州ルート of 整備に伴う並行在来線  
経営分離に同意する決議

上記の議案を別紙(案)のとおり、江北町議会会議規則第18条の  
規定により提出します。

平成18年3月17日

提出者 江北町議会議員 岸川 義 晴

賛成者

江北町議会議員	池田 和幸	江北町議会議員	西原 好文
〃	吉岡 水男	〃	田中 久義
〃	吉岡 隆幸	〃	田村 久継
〃	古賀 成	〃	武富 久

江北町議会議長

小林 正 様

平成18年3月17日原案可決

江北町議会議長 小林



九州新幹線西九州ルート of 整備に伴う並行在来線経営分離に同意する決議 (案)

江北町は、JR長崎本線と佐世保線との分岐駅である「肥前山口駅」を有し、かつ、国道34号線と国道207号線との分岐点でもあり、県の中央部に位置し交通の接続部として重要な位置を占めている。また、先人の功績により、交通の要衝として発展してきたという歴史的経緯がある。

一方、西九州地域の一体的発展に必要な高速交通基盤として九州新幹線西九州ルートが推進されており、平成16年12月の政府・与党の申合せにおいて、条件付着工が決定された。その計画は、新島栖(仮称)・武雄温泉間は在来線を利用し武雄温泉・諫早間は新線を建設し「肥前山口駅」は新幹線の停車駅として位置付けられている。

江北町議会は、現在の計画がフル規格に変更される懸念もあったことから、慎重に対応してきたが、県及びJR九州の詳細にわたっての説明により、フル規格化の懸念が一掃され、なおかつ、「肥前山口駅」の分岐駅としての機能が確保されることも確認することができた。

また、在来線の佐世保線は、特急列車、普通列車ともに現行どおりに運行され、また肥前山口・肥前鹿島間は並行在来線としてJR九州から経営分離されるものの、上下分離方式により、JR九州がそのまま運行することが確約されている。

経営分離後の運行形態については、沿線地域住民の利便性が著しく低下しないよう関係者間で十分協議されるべきものとする。

博多駅では山陽新幹線と対面乗換えとなり、全国の新幹線網につながる西九州ルートの停車駅として「肥前山口駅」が位置付けられることにより、町の振興発展におよぼす影響は大きなものがあると期待され、さらに、交流人口の増加や定住人口の増加を図るべく、町づくりや住環境の整備を推進していくことが今後の町の発展につながるものと思う。

以上のようなことから、江北町議会としては九州新幹線西九州ルート of 整備を前提として、将来につながる、新幹線をいかした地域振興策を図っていくことが江北町の利益にかなうものと考え、現在の計画による九州新幹線西九州ルート of 整備に伴う並行在来線経営分離に同意する決議をするものである。

平成18年3月17日

江北町議会